

## 2015年度日本小児看護学会地方会（甲信越地区）開催報告

2015年度地方会代表者 井上 みゆき

2015年度日本小児看護学会地方会（甲信越地区）は、平成27年10月31日に、山梨県立大学看護学部 池田キャンパスにて、テーマ「子どもの医療をめぐる倫理コンサルテーション— めざせ、倫理コンサルテーションが出来る看護師！ —」として、宮崎大学医学部社会医学講座生命・医療倫理学分野 板井孝太郎先生を講師に招聘し開催いたしました。プログラムは、前半に「倫理コンサルテーションの考え方」の講義をしていただき、後半は参加者がグループに分かれ実際の事例を検討し、発表して講評をいただきました。

秋晴れのもと、全国各地から57名（会員22名、非会員35名）の参加がありました。各参加者の職種の概要は、看護管理者、小児看護専門看護師、教員など、経験豊かな方が多く参加してくださいました。講義の内容に関するアンケートでは、期待どおりであったなど、好評価をいただきました。自由記載では、「今まで受けた研修の中で、最も勉強になり、最も現場で使えそうで、最も楽しかった」「講義の後に事例を検討することで、得た知識をすぐに活用できて勉強になった」など、臨床にすぐに還元できるといった記載が多くありました。また、板井先生は絶妙なお笑いを交えて、難しい臨床倫理を分かりやすく講義してくださいました。「講師の具体的な話の展開は非常にわかりやすかった。」「講師の先生の話しが楽しく、1日があつという間でした。」などの記載がありました。

臨床倫理をサポートするには、対人関係のスキルとして「能動的傾聴」「コミュニケーション・スキル」「自分自身のことを言葉にして表現することが困難状況にある人の想いを代弁するアドボカシー・スキル」を必要とするということでありました。これらのスキルは、看護師としてのスキルと共通します。私たち看護師が倫理コンサルテーションを実践することは、看護の質の向上に繋がります。

このたび、山梨で地方会を開催する、貴重な機会を与えてくださいました日本小児看護学会の皆様にご心より御礼を申し上げます。



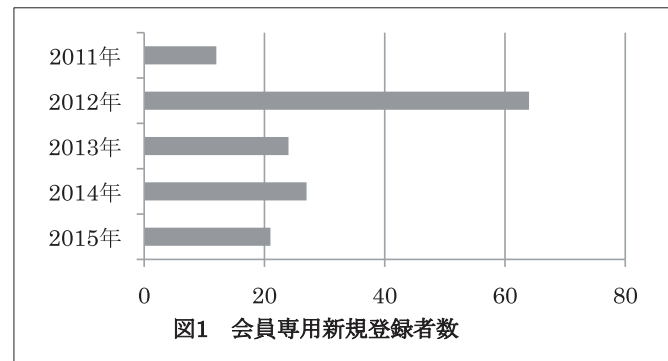
## 会員専用SNSの現況報告

広報委員会

日本小児看護学会広報委員会では、学会活動に関する内容を中心に小児看護の情報を会員の皆様と共有できるようホームページ更新やニュースレター発行等に取り組んでいます。会員専用SNSは2012年4月に運用を開始し、ニュースレター第42号（2013年3月発行）に、その意義と利用状況について掲載されました。運用開始後4年近く経過する中で、2016年2月9日現在の会員専用SNSの現況と課題をご報告いたします。

〔会員専用SNSの現況〕

現在のSNS登録メンバーは151名（2013年：80名）で、全会員数の約8%の参加率（2013年：6%）にあたります。一方、新規登録者数は2012年をピークに2013年以降は大きな増減なく20数名で経過しています（図1）。月別アクセス数を年度ごとの幅で見ると、2012年524～1293、2013年235～958、2014年146～1089、2015年27～358で、利用の伸び悩みが見受けられます。



現在、8つのコミュニティがあり、メンバーの人数が多いものから小児看護教育25人、プレパレーション25人、在宅ケア15名などで、いずれも学術集会エキスパートパネル関連で立ち上がりました。3年前のニュースレター掲載後、新たなコミュニティの立ち上げはなく、書き込みは昨年9月が最終となっています。

〔今後の課題〕このように、会員専用SNSは、必ずしも十分に活用されているとは言えない現状にあります。その維持・管理料等も考慮して、より多くの会員のニーズに応える取り組みとは何かを広報委員会で検討して行きたいと考えています。皆様のご理解とご協力をお願いいたします。（奈良間美保）

## ◆ 編集後記 ◆

小児看護学会ニュースレター第48号をお届けします。第26回学術集会や学会誌のオンライン投稿・査読システム導入、日本小児看護学会研究助成等のご案内とともに、会員用SNS利用についてご報告させていただきました。

会員の皆様の活動の場は全国に広がり、勤務施設も多種多様となるなかで、小児看護に関する情報を相互に利用できる活動について考えて参りたいと思います。

広報委員会メンバー

委員長：奈良間美保

委員：上原章江、竹内幸江

新家一輝、堀 妙子

丸 光恵

2016年3月 第48号

一般社団法人

# 日本小児看護学会

Japanese Society of Child Health Nursing

## News Letter

### 日本小児看護学会 第26回学術集会開催に向けて

学術集會会長 高野 政子  
(大分県立看護科学大学看護学部)



第26回学術集会の開催までいよいよ数か月となりました。九州・沖縄をはじめ多くの皆様のご支援により、開催に向けて準備が進んでいますことをお礼申し上げます。

今回のメインテーマは、「つなぎ、活かす、小児看護の現在（いま）と未来 -Linkage, Coordination and

Development -」です。現在、日本は超高齢社会と少子化に直面しています。保健、医療を取り巻く環境の変化や患者ニーズの多様化に対応できる高度実践看護の実践者として専門看護師（CNS）やナースプラクティショナー（NP）の活躍が待たれていると思います。特別講演には、米国ワシントンD.CにあるChildren's National Medical Centerで小児NPとして活躍されている美智子・レンデンマン氏を招聘し、今後の日本における小児領域の専門看護師CNSと診療看護師NPの活動の在り方に示唆を得たいと思います。また、教育講演では国立病院機構福岡病院名誉院長の西間三馨氏に、子どもの食物アレルギー対策と健康支援について、先生の豊かなご経験を交えて看護職にエールを頂きたいと思います。

シンポジウムでは、日本の小児の在宅療養を支援するチー

ム医療と看護連携について考えます。

シンポジストには日本看護協会会長の坂本すが氏、重心障害児施設長で医師の佐藤圭右氏、地域連携を実践している小児専門看護師の品川陽子氏、在宅療養を支援している診療看護師（NP）の後藤愛氏や訪問看護師の中本さおり氏をお迎えします。子どもが住む地域による医療格差のない社会をめざし、安全で安心な医療の提供を保障する上で、看護職はどのようにあるべきか、いかに子ども達の健康や生活を支えていくかの問いに、皆様の取り組みをお話頂きます。

日本の社会が限られた資源の分配において、子どもたちが優先されるような社会であってほしいと願っています。第26回学術集会では、小児看護を進歩させる上での現状の課題を理解し、未来への発展について情報交換の場としたいと思います。また、学術集會は看護実践のさまざまな取り組みを共有する機会とし、小児看護を活発に展開するための看護教育や診療報酬についても協議します。「おんせん県おおいた」は、別府8湯というほど泉質も湧出量も豊富な別府温泉や由布院温泉などもあります。全国からの参加者が温泉に癒され、実りの多い学術集會となるよう願っています。九州での開催は12年ぶりです。多くの皆様のご参加を心よりお待ちしております。

### 日本小児看護学会 第26回学術集会ご案内

学術集會テーマ：つなぎ 活かす 小児看護の現在と未来  
— Linkage, Coordination and Development —

【会 期】2016年 7月23日（土）～24日（日）

【会 場】別府国際コンベンションセンター ビーコンプラザ

【プログラム(1日目)】

会長講演：「小児看護の現在（いま）を見つめ、未来の姿を創造する」  
高野 政子（大分県立看護科学大学 小児看護学研究室 教授）  
特別講演：「米国における小児のNPとCNSの活動」  
美智子・レンデンマン氏（Ph.D.CPNP）  
Children's National Medical Center, ワシントン D.C, 米国  
特別企画：「東日本大震災から5年—子ども・家族の現在（いま）と未来を支えるために」

テーマセッション、一般演題（口演・示説）、総会、懇親会

【プログラム(2日目)】

教育講演 「子どもの食物アレルギーと健康支援」  
西間 三馨氏 国立病院機構福岡病院名誉院長

シンポジウム：「小児在宅療養を支援する新たな看護専門職の連携」

テーマセッション、一般演題（口演・示説）、ランチパフォーマンス

【第26回学術集會 URL】

http://www.jschn26.jp から画面表示に従って登録して下さい。

【参加費用】

会 員（事前）：10,000円、会 員（当日）：12,000円  
非会員（事前）：11,000円、非会員（当日）：13,000円  
学生（大学院生や認定看護師教育課程は除きます）  
事前・当日とも3,000円  
懇 親 会：7,000円

<学術集會事務局> 大分県立看護科学大学小児看護学研究室  
〒870-1201 大分市廻野2944-9  
E-mail: jschn26@gm.oita-nhs.ac.jp  
<運営事務局> 演題登録・事前参加・学会運営に関するお問い合わせ  
株式会社 マイダスコミュニケーション  
〒870-0844 大分市古国府1155-1  
E-mail: jschn26@maidas-net.co.jp



## 委員会活動紹介 編集委員会 ～オンライン投稿・査読システムを導入します～

委員長：江本 リナ  
委員：荒木 暁子、小川 純子、川口 千鶴、  
川名 るり、草柳 浩子、小村三千代、  
鈴木真知子、西田みゆき、山村 美枝  
事務局担当：山内 朋子、太田 智子、吉田 玲子

日本小児看護学会誌は会員のみなさまの投稿論文によって成り立っています。その学会誌の編集を担っているのが編集委員会です。編集委員会の役割は主に、①投稿論文1つずつの査読プロセスを導き受理されるまでの論文審査と、②学会誌に掲載する原稿の校正や編集に分けられます。大変嬉しいことに、学会員の増加に伴い投稿数も増え、年間約 50 編の投稿論文があり、100 名以上の査読者のご協力をいただいています。学会がここまで大きく発展してきたことで、投稿・査読の利便性や事務局の業務量から課題が見えてきました。

例えば、投稿者や査読者は論文の進捗状況が見えにくいことや、文書の送付や依頼が郵送のため迅速でないこと、事務局が置かれている地域から遠いほど送付に日数がかかり公平性がないことなどが課題でした。また、学会誌の創刊以来、編集委員会は一連の業務を手作業で行ってききましたが、大学の専任教員を務めながら年3回の発行に対応し、延べ 150 人以上の方々とのやりとりを一手に引き受けるには、限界が見えてきました。

そこで学会員のメリットを考え、オンライン投稿・査読システムを用いて論文審査を行い、学会誌編集業務の一部を業者委託することになりました。これにより、オンライン上で論文や査読が提出でき、進捗状況も分かり、利便性が高まると期待しています。

現在、オンラインシステムの仕様を、投稿者・査読者・編集委員に利用しやすいものになるようカスタマイズしてい

るところです。初めて利用する場合には戸惑うかもしれませんが、操作方法が分かる動画とガイドラインを作成する予定です。また、システム利用の説明会や講習会などの開催も計画しています。

オンライン投稿・査読となることに伴い、いくつか大きく変わることがあります。

- (1)いつでも投稿できるようになります。
- (2)発行時期が設定されるため、それまでに最終査読が終わっている論文が掲載されます。
- (3)論文受け付け基準をより明確にし、その基準がクリアされない場合は差し戻されます。
- (4)オーサーシップ（筆頭者・共同執筆者の責務）や利益相反の確認を検討しています。
- (5)投稿規程、査読ガイドラインも合わせて改定される予定です。

2016 年の夏にはオンライン投稿・査読が開始できるよう準備を進めています。この他、本学会誌を電子ジャーナル公開プラットフォームである J-STAGE に掲載する運びとなり、その手続きを進めているところです。

会員のみなさまから多くの論文が投稿され、学会誌が小児看護学の知の蓄積に貢献できることを願っています。

### 第 7 回（2017年度）日本小児看護学会研究助成公募

日本小児看護学会では、子どもたちの健康増進に寄与するために、小児看護の実践・教育に関する調査・研究の費用の一部を助成しております。助成は年間2件（1件10万円）です。

#### 【応募資格】

申請者（代表者）および共同研究者すべては2016年度の会費を振り込まれた本学会の会員であること。なお、大学や研究機関に所属するものが代表研究者になることはできません。

#### 【研究テーマ】

小児看護の実践・教育に関するテーマとします。但し、営利を目的または営利につながる可能性の大きい研究や他の機関から助成を受けている研究（予定を含む）は助成対象となりません。

#### 【応募締切】

2016年11月30日（水）必着 詳細は、学会HPをご参照ください。皆様からの応募お待ちしております。

## 「リレートーク」 濱中喜代さん

濱中先生



#### 自己紹介

出身は岩手県花巻市で、童話作家である宮澤賢治の生家の近くで生まれ育ちました。5人姉妹の4番目で、父が小1で急逝したために、伯父の家族と一緒に大家族で子ども時代を過ごしました。弘前大学教育学部の「華の3回生」として、赤本で有名な基礎看護学の吉田時子先生や当時小児看護学の准教授で着任した吉武香代子先生等のもとで、学生10名の手厚い教育を受けました。

#### 看護師になったきっかけ

実は大学の第一希望は「特殊教育」で第二希望の「特別教科（看護）」になったのですが、課程の変更考える前に、元々子どもに関心が高かったこともあり、看護（特に小児看護）の魅力に導かれていきました。吉田先生の「教員になるとしてもまずは看護師として力を身につけるべき」という教えのもと、3回生の多くは関東の著名な病院に就職し、私も聖路加出身の優れた教員にあこがれて、当時7倍率の難関を突破して看護師になりました。

#### 新人時代の思い出

聖路加国際病院の小児病棟には腸閉鎖の新生児から胆道閉鎖の手術、喘息や外傷の緊急入院、斜頸や骨折、小児がん等、多様な病気が年齢、経過の子どもがいて、健康に育った私には本当に「未知の世界」であり、大きな衝撃を受けました。毎日必死で看護するなかで看護観を確かにする機会にもなりました。忘れられない事は2年間で11人の子どもを看送ったことです。大変辛い体験でした。子どもの健気さや当時の医師や看護師の仲間に助けられ、踏みとどまることができました。その後の神奈川県立こども医療センターでは、瀕死の子どもが回復していく手助けができ、看護の力を実感し、看護への思いが新たになりました。

臨床経験4年の後に、千葉大学の看護学部が完成年度迎えるということで恩師の吉武先生に声をかけられ、文部教官助手になりました。当時附属病院にはまだ看護部はなく、家族の付き添いがあってはじめて医療が成り立っている環境でした。1回生の半数弱が男子で現役が1名だけという環境で実習指導を担いました。生意気だったのかもしれませんが納得できない事は医師とも議論して、徐々に存在を認めてもらっていきました。学生と患児だけではなく、付添いや看護師さんも含めて×5～6人を受け持っている

感覚で仕事していました。その実習指導のなかで実践的に得られたことが今も大きな宝になっています。

#### 小児看護の魅力

小児看護の道に入って、40年以上が経ちました。魅力は①尊い命・人生にかかわる事、②今を生きる子どもを支える事、③子どものもつ力に元気づけられる事等です。その魅力とお子さんのご家族に後押しされて、また教え子に助けられて、生かされてきた感が正直な所です。

#### ストレス解消法

実は性格的に小心者で NO と言えないタイプなので、ストレスはたまりやすい?方かもしれません。洋服を安く買うのと温泉が好きですね。最近は時間がありませんが以前は旅行に行ったり、映画を見たりして気分転換を図るようにしていました。

#### 後輩達に期待すること

今看護師さんに求められることはどんどん大変さが増しているように思えます。教え子や実習でお世話になっている看護師さん達をみていて、小児看護の場でいきいきと仕事をするためには何が大切なのか考えさせられます。新人の頃に存在を認められ、先輩から助けられ、チームのなかで育てられた環境がなかったら、今の私はありません。是非様々なチームの中で主体的に行動し己をいかす力を備えてください。小児看護の技と心を育み伝えあう力も大切です。対象である子どもや家族、社会への対応力も皆様の未来を築く力になると考えます。自分の看護を振り返り、感性を大切に子どもや家族の反応を読み取れる看護師になってほしいと思います。

バトンを受けて欲しい人 🏆 日沼千尋さん